

世界標準債券ファンド（1年決算型） ＜愛称 ニューサミット（1年決算型）＞

追加型投信／内外／債券

交付運用報告書

第1期（決算日2015年7月17日）

作成対象期間（2014年6月2日～2015年7月17日）

第1期末（2015年7月17日）	
基準価額	10,628円
純資産総額	1,688百万円
第1期	
騰落率	6.3%
分配金（税込み）合計	0円

(注) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は四捨五入して表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

＜運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法＞

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「世界標準債券ファンド（1年決算型）」は、2015年7月17日に第1期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、国際経済・国際政治の動向に大きな影響を与えるとみられる国や地域の通貨建てのソブリン債券を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
<http://www.nikkoam.com/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

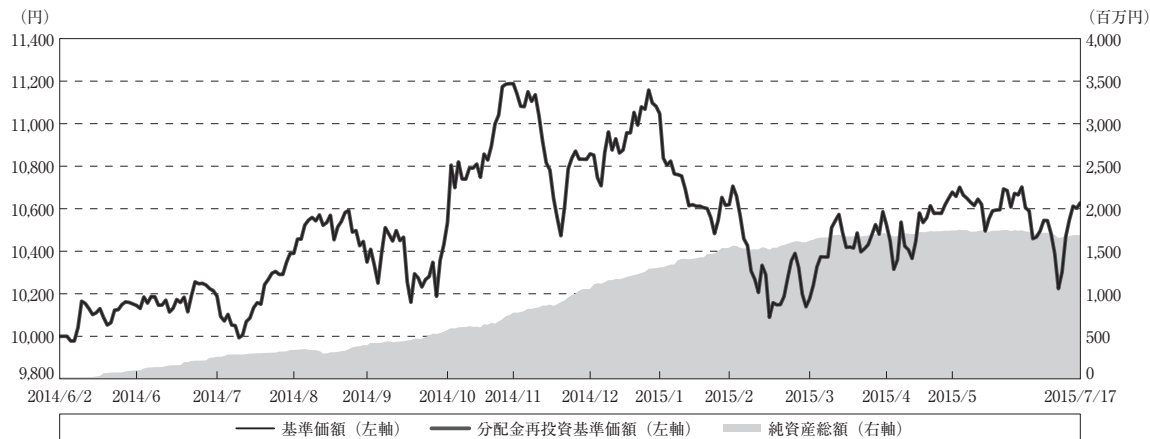
コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2014年6月2日～2015年7月17日)



設定日：10,000円

期 末：10,628円（既払分配金（税込み）：0円）

騰落率： 6.3%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の推移

設定時10,000円の基準価額は、期末に10,628円となり、騰落率は+6.3%となりました。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、国際経済・国際政治の動向に大きな影響を与えると思われる国や地域の通貨建てのソブリン債券を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっております。期中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・保有債券からの金利収入を得たこと。
- ・オーストラリア、アメリカ、ブラジル、メキシコの長期ゾーンの債券利回りが低下（債券価格は上昇）したこと。（期前半）
- ・アメリカドルが対円で上昇したこと。

<値下がり要因>

- ・ブラジルレアルが対円で下落したこと。
- ・債券利回りが上昇（債券価格は下落）したこと。（期後半）

1万口当たりの費用明細

（2014年6月2日～2015年7月17日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 133	% 1.265	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率
（投信会社）	（ 46）	（0.441）	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	（ 83）	（0.787）	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（受託会社）	（ 4）	（0.036）	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	11	0.108	(b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益 権口数
（監査費用）	（ 1）	（0.006）	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（印刷費用）	（ 11）	（0.102）	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
合 計	144	1.373	
期中の平均基準価額は、10,550円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く）が支払った費用を含みません。

(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2010年7月20日～2015年7月17日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 当ファンドの設定日は2014年6月2日です。

	2014年6月2日 設定日	2015年7月17日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,628
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	6.3
純資産総額 (百万円)	20	1,688

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、騰落率は設定当初との比較です。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定していません。

投資環境

（2014年6月2日～2015年7月17日）

（海外債券市況）

期前半の米国債券利回りは低下しました。国際通貨基金（IMF）による世界成長率予想の下方修正の発表や、原油価格の下落などを受けて投資家のリスク回避姿勢が強まったこと、欧州を中心に金融市場が不安定化する懸念などを背景に、債券利回りは低下しました。期後半の米国債券利回りは上昇しました。ギリシャの政情不安や原油価格の下落基調などを受けた安全資産への逃避需要の強まりや、米国における市場予想を下回る内容の経済指標の発表、欧州中央銀行（ECB）による量的金融緩和策の実施の決定などから、債券利回りは低下しましたが、その後、中国の追加金融緩和策の発表などを背景とした安全資産への逃避需要の後退や、ユーロ圏の長期金利の上昇、米国の市場予想を上回るインフレ率の発表、米国連邦準備制度理事会（FRB）議長による2015年中の利上げ開始を示唆する発言などを背景に、上昇しました。

期前半の新興国の債券利回りは、中国や欧州における景気減速懸念の強まりなどを背景に米国長期金利が低下したことや、原油安を背景に石油輸入国の経常収支改善への期待が高まったことなどを受けて、低下しました。期の後半は、米国における市場予想を上回る内容の経済指標の発表などを受けた長期金利の上昇や、FRBによる早期の利上げ開始観測などを背景に外国人投資家などによる新興国債券の買い需要の減少懸念、ギリシャのデフォルト（債務不履行）などに対する危惧からの投資家によるリスク回避姿勢の強まりなどを背景に、債券利回りは上昇しました。

（国内短期金利市況）

無担保コール翌日物金利は、期中、概ね0.05～0.09%の範囲で安定的に推移しました。国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、設定時の0.05%近辺から、2014年7月中旬にかけては、金融緩和の継続や海外からの投資資金の流入などを背景に0.02%近辺まで低下しました。その後は横ばいの展開が続いたものの、9月に入ると、日銀による積極的な短期国債の買入れ姿勢などを背景にマイナス金利となり、11月中旬には-0.08%台まで低下しました。11月下旬から2015年1月上旬にかけては、日銀がTBの買入れ額を減額したことなどをを受けて上昇し、一時0.02%台となりました。その後は、日銀がTBの買入れ額を増加したことなどを背景に再びマイナス金利に低下するなど、0.00%近辺のもみ合いとなりました。期末にかけては、ギリシャの債務問題を背景とした、ユーロ圏からの資金流入で、一時的に-0.07%台まで低下する局面もありました。

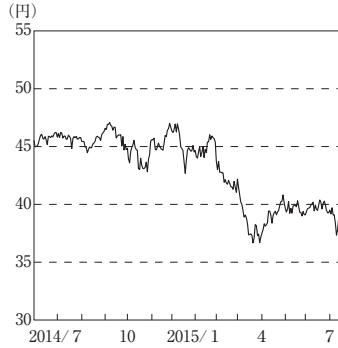
（為替市況）

期中における主要通貨（対円）は、下記の推移となりました。

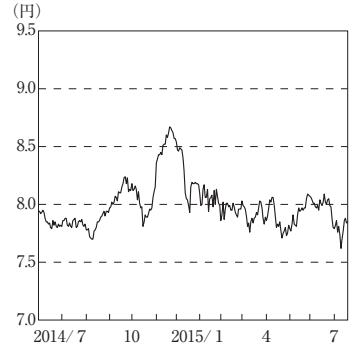
円／アメリカドルの推移



円／ブラジルレアルの推移



円／メキシコペソの推移



当ファンドのポートフォリオ

（2014年6月2日～2015年7月17日）

（当ファンド）

当ファンドは、収益性を追求するため「ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

（ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA）

設定時より、ブラジルリアル建て、メキシコペソ建て、オーストラリアドル建ての国債や国際機関債に幅広く投資を行ないました。期中、アメリカドルの堅調な推移や、オーストラリアの債券や信用力に関する問題を受け、オーストラリアドル建て資産を売却し、新たにアメリカドル建て資産を組み入れました。

期の前半には、ブラジルリアル建て資産とメキシコペソ建て資産の組入比率を高位に維持しましたが、期の半ばには、米国の経済指標の改善加速やアメリカドルの対円での上昇を受けて、アメリカドル建て資産の組入比率を引き上げました。

期の後半には、メキシコペソとブラジルリアルの組入比率を引き上げた一方、大幅なアメリカドル高を考慮してアメリカドルの組入比率を引き下げました。また、期の後半を通じてメキシコペソとブラジルリアルの組入比率を機動的に調整しました。債券市場においては、メキシコとブラジルの金利水準が高い点に着目し、金利収入をある程度確定するために両国のデュレーション（金利感応度）を引き上げました。期末時点における投資対象国は、組入比率の高い順にメキシコ、ブラジル、アメリカとなっています。

（マネー・アカウント・マザーファンド）

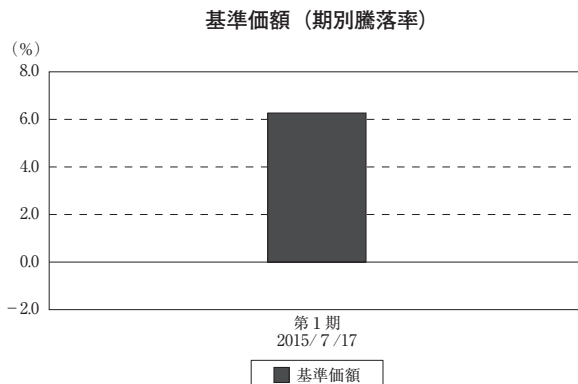
運用の基本方針に従い、国庫短期証券の現先取引などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2014年6月2日～2015年7月17日）

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

右記のグラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



（注）基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

分配金

（2014年6月2日～2015年7月17日）

基準価額水準、市況動向などを勘案し、当期の分配を見送りいたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第1期
	2014年6月2日 ～2015年7月17日
当期分配金 (対基準価額比率)	— —%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,289

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

（当ファンド）

引き続き、「ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA」受益証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

（ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA）

足元では、FRBによる米国の利上げのペースを巡る思惑や、新興国通貨への影響の大きい中国景気の減速懸念、ギリシャのデフォルト問題の不透明感の強まりなどが投資家心理を悪化させる要因となる可能性があるかとみています。しかし、FRBがアメリカドル高に対して慎重な見方を一段と強めたことや中国政府が積極的な景気刺激策と金融緩和策を実施したことなどから、先進国の外国為替市場のボラティリティ（変動性）は依然として高い状態が続くとみています。

メキシコについては、個人消費の回復や、製造業セクターの好調なパフォーマンスなどから、景気回復が経済全体に広がっていることを示す兆候が見られます。ブラジルについては、債券の高利回り水準が継続し、インフレ率が低下する見通しです。

当ファンドでは、経常黒字、証券投資資金の流入、企業の直接投資などによる自国通貨に対して堅調な需要が見込めると考えられる市場や、自国通貨が上昇する見込みがある市場、あるいは自国通貨が安定しており高いインカムゲインが期待できるような市場を引き続き投資対象市場として検討します。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

（マネー・アカウント・マザーファンド）

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主な投資対象は、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

2014年6月2日から2015年7月17日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

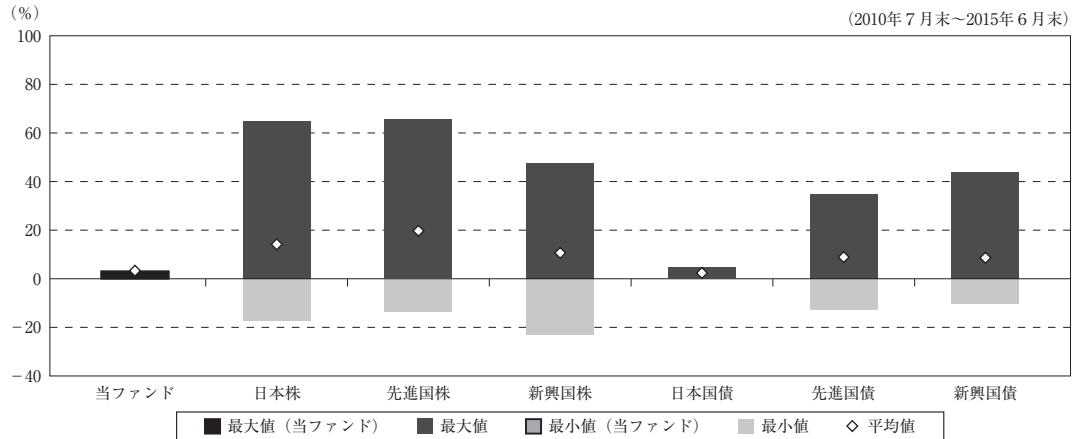
当ファンドについて、2013年6月に改正された金融商品取引法および投資信託及び投資法人に関する法律ならびにこれに関連する政令・内閣府令が2014年12月1日に施行されたため、改正後の法令に対応させるべく、2014年12月1日付にて信託約款に所要の変更を行ないました。（第40条、第45条、第46条、第49条の2）

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2014年6月2日から2029年7月17日までです。
運用方針	主として、国際経済・国際政治の動向に大きな影響を与えるとみられる国や地域の通貨建てのソブリン債券（国債、州政府債、政府保証債、国際機関債などをいいます。）を主要投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	「ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンドクラスA」受益証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	主として、国際経済・国際政治の動向に大きな影響を与えるとみられる国や地域の通貨建てのソブリン債券を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。投資対象通貨の中から3通貨程度を選定し、当該通貨建てのソブリン債に投資します。
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	3.1	65.0	65.7	47.4	4.5	34.9	43.7
最小値	3.1	△17.0	△13.6	△22.8	0.4	△12.7	△10.1
平均値	3.1	14.2	19.7	10.6	2.4	8.9	8.6

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2010年7月から2015年6月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2015年6月以降の年間騰落率を用いております。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX、配当込）

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス（配当込、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）

日本国債：NOMURA - ボンド・パフォーマンス・インデックス国債

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガン GBI - EM グローバル・ディバーシファイド（円ヘッジなし、円ベース）

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2015年7月17日現在)

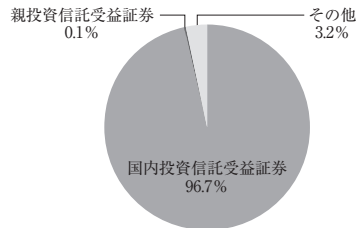
○組入上位ファンド

銘柄名	第1期末
	%
ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA	96.7
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1
組入銘柄数	2銘柄

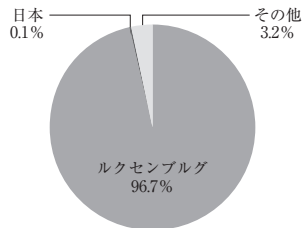
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

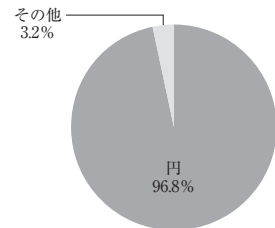
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

純資産等

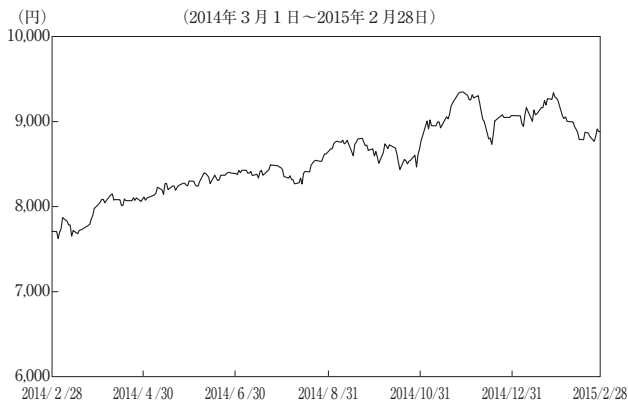
項目	第1期末
	2015年7月17日
純資産総額	1,688,962,603円
受益権総口数	1,589,230,455口
1万口当たり基準価額	10,628円

(注) 期中における追加設定元本額は1,948,683,176円、同解約元本額は379,452,721円です。

組入上位ファンドの概要

ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2014年3月1日～2015年2月28日)
当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載していません。

【組入上位10銘柄】

(2015年2月28日現在)

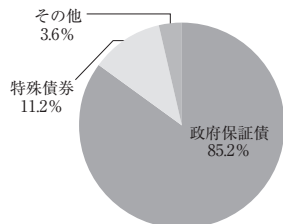
	銘柄名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率
					%
1	Brazil Notas do Tesouro Nacional Serie F10.00% due 01/01/25	政府保証債	ブラジルリアル	ブラジル	4.8
2	Mexican Bonos10.00% due 11/20/36	政府保証債	メキシコペソ	メキシコ	3.9
3	Brazil Letras do Tesouro Nacional0.00% due 01/01/17 (1)	政府保証債	ブラジルリアル	ブラジル	3.8
4	Brazil Notas do Tesouro Nacional Serie F10.00% due 01/01/17	政府保証債	ブラジルリアル	ブラジル	3.7
5	U.S. Treasury Note1.88% due 11/30/21	政府保証債	アメリカドル	米国	3.4
6	Brazil Notas do Tesouro Nacional Serie F10.00% due 01/01/21	政府保証債	ブラジルリアル	ブラジル	3.4
7	Mexican Bonos10.00% due 12/05/24	政府保証債	メキシコペソ	メキシコ	3.4
8	Brazil Letras do Tesouro Nacional0.00% due 04/01/16 (1)	政府保証債	ブラジルリアル	ブラジル	3.3
9	International Bank for Reconstruction & Development2.50% due 11/25/24	政府保証債	アメリカドル	国際機関	3.2
10	Mexican Bonos8.50% due 12/13/18	政府保証債	メキシコペソ	メキシコ	3.2
	組入銘柄数			68銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

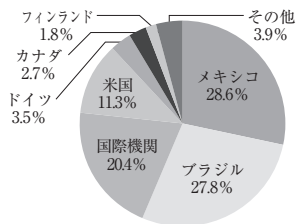
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

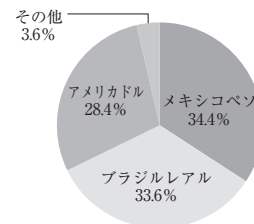
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



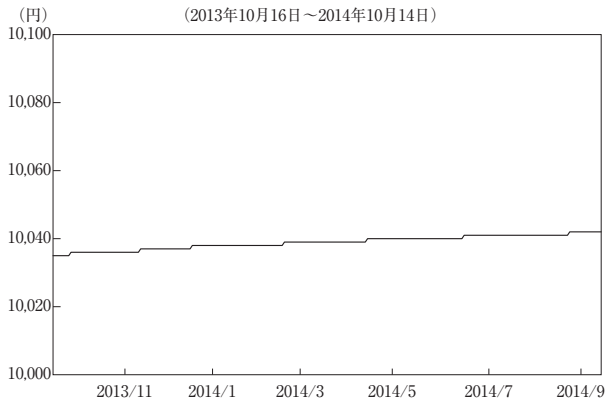
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

マネー・アカウント・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2013年10月16日～2014年10月14日)



【1万口当たりの費用明細】

(2013年10月16日～2014年10月14日)

該当事項はございません。

【組入上位10銘柄】

(2014年10月14日現在)

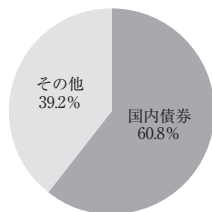
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	第479回国庫短期証券	国債証券	円	日本	31.1
2	第481回国庫短期証券	国債証券	円	日本	29.7
3	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—
5	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
	組入銘柄数			2銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

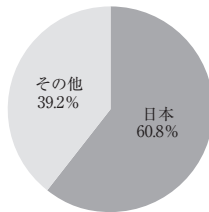
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

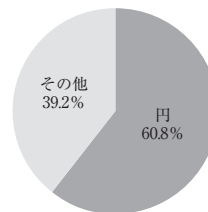
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

○東証株価指数（TOPIX、配当込）

当指数は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。

○MSCI – KOKUSAI インデックス（配当込、円ベース）

当指数は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）

当指数は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA – ボンド・パフォーマンス・インデックス国債

当指数は、野村証券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村証券株式会社に帰属します。

○シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

当指数は、Citigroup Index LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

○JPモルガン GBI – EM グローバル・ディバースィファイド（円ヘッジなし、円ベース）

当指数は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。